

私たちが選ぶ防災 防災訓練 9月19日実施

9月19日木曜日4限目、山口先生の話された避難心得が放送で流れた後、避難訓練が開始されました。

この度は、震度6の地震が発生し、それに伴い3階理科室から出火したという想定で、教職員、生徒総勢650名が、「おはしも（押さない、走らない、しゃべらない、もどらない）」を合言葉に、各教室から避難し、校庭で集合し、点呼完了まで8分間かかりました。ご指導にあたって下さった上京消防署の方からは、落ち着いて、迅速に避難行動ができていたと講評を頂きました。

今年の避難訓練を実施のなかで、新しい試みが2つなされました。1つ目の試みとして、各ホームルームに、避難場所への経路を記した校内地図を掲示したこと、2つ目に生徒一人ひとりに防災袋が配布されたことです。避難訓練当日も、避難袋を各自持ってくるの集合となりました。



用意された避難袋～備えあれば憂いなし！～

学校より配布された避難袋の中には、軍手、簡易マスク、カロリーメイト2箱（その内、一箱は3年保存可）が入っています。カロリーメイトは容易にカロリーを補給することはできますが、食べ物にアレルギーを持つ人には、自分の身体に合うものを用意する必要があります。その他、飲料用飲み水、生理用品など、今後も必要とされるものを出来るだけ効率よく備えなければなりません。

「備えあれば、憂いなし！」日常生活のなかで、防災意識を持ち続けることが、やはり必要であると考えさせられる一日となりました。



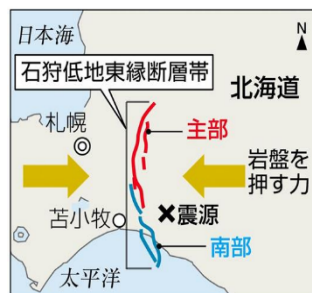
再考：北海道胆振東部地震

2018年9月6日、深夜3時過ぎにおきた北海道胆振（いぶり）東部地震は、北海道ではじめて観測された最大震度7級の大地震だった。テレビでも大きく報道されたが、深夜におきた地震が道内全域の約295万戸の停電をもたらした。想像してみてください。深夜に自宅に寝ていたとき、大きく揺れたらどんな行動を取るだろうか。もし停電していたら指定されている避難場所に移動できるだろうか。この地震が起きる前日、超大型で日本列島に傷跡を残した台風21号が北海道にも暴風と大雨をもたらした。

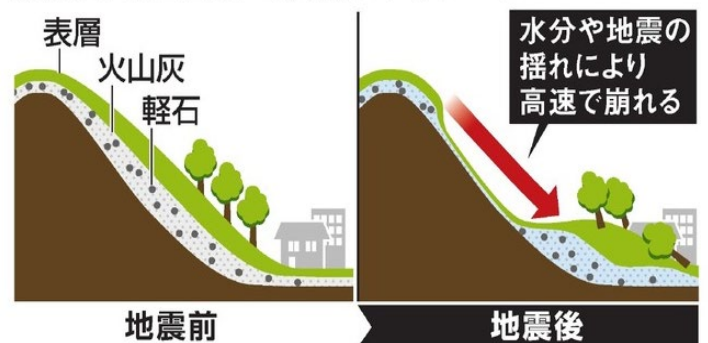
新千歳空港から東に位置する厚真（あつま）町では、山会いの民家が土砂崩れによってほとんどのまれてしまい亡くなられた方もいた。上空から大地を見ると、緑に覆われていた山の傾斜が土砂崩れによって茶色に変わり、土がむき出しになっていた。避難をするということは、自然のメカニズムを理解し最善の方法で自分のいのちを守ることである。そのことを忘れずに、自分がとるべき行動を常に覚えておくことが大切ではないか。

覚えてますか？

液状化現象



厚真町で起きた土砂崩れのイメージ



地震がおきた後、地下水位の高い砂地盤が振動によって液体状（ゆるゆるの地面）になる現象をいう。これにより建物、大きな構造物が沈下し、地中から比重の小さな下水道管などが浮き上がることもある。

電柱の垂れ下がりも停電復旧の遅れにつながった

（札幌市）
地震により
陥没した道路



世界で起きる自然災害 インドネシア・スラウェシ島

2018年9月28日、インドネシア現地時間の午後6時頃スラフェシ島の北80kmで地震が発生し、2mの津波が到達したと報告されている。東日本大震災や死者22万人を出したスマトラ島地震と異なり、規模の小さな地震と思うのは間違いである。津波の到達は6分と早く、沿岸の奥深くまで到達してなかった。地震で沿岸部の平地が地すべりを起こし、湾の狭い範囲に建物や人が

インドネシアの震源地



追いやられた結果、被害が大きくなったとも推測されている。インドネシア国防省は死者数が2000人を超えたことを明らかにしているが、生存者がいる可能性は少なく、捜索を終了する。救助隊に捜索を懇願する家族が、変わりはないでも、体の一部でもと神に祈っている」とコメントした。

（毎日新聞web記事 10月9日 21:37 より一部抜粋）